

# 香肌小に初の山村留学

## 父の単身赴任 機に母子4人で 県外から K 君兄弟

2019（平成31）年から地区外の児童を受け入れる「親子山村留学制度」を取り入れる松阪市飯高町森の市立香肌小学校（大瀧郁子校長、12人）に10月から初めての「留学生」が通っている。地域の人や学校の友達に優しく教えてもらいながら、毎日楽しく生活をしている。

## 「子供の姿、生き生き」と母

同小の仲間に加わったのは5年・K 壮汰君と、3年・向希君の兄弟。母・直香さん（38）と、妹・月奏ちゃん（2）と一緒に県外から移り住み、先月12日から通っている。K さん一家は、父がインドネシアへ単身赴任することになり、家族4人で暮らしやすい所を探していたところ、山村留

10月に体験入学に訪れた際、大瀧校長をはじめ、先生や児童たちが優しく丁寧に教えてくれ、好印象だった。

壮汰君は「焼き芋作りなどしてみたいと思っていたので、めちゃめちゃうれしい。みんながいろんなことを手伝ってくれたり、困っていると助けてくれます」、向希君は「学校生活は毎日が楽しい。焼き芋や運動会、学習会など体験したことがない行事がたくさんあって、わくわくします」と早速溶け込み、充実した学校生活を送っている。直香さんは「学校や子供たちが、そして地域の皆さんがいい人で、すてき

な学校。今までPTAはやりたくないと思っていましたが、子供たちが生き生きしている姿を見て、自分から関わりたいと思えるようになった」と笑顔。「香肌小が存続

同校と同校PTA（木場盛生会長、8戸）はこのほど、PTA行事「フアミリークッキング」を開催。K さん一家をはじめ、同時に行われた山村留学のオープンスクー



PTA行事で焼き芋作りを体験して、山村留学生活を楽しむ K さん一家  
＝飯高町森の香肌小で

オープンスクールに新たに2組が参加しているという。壮汰君の卒業まで在籍する予定だが、延長も検討しているという。

ルに参加した家族2組8人と一緒に、焼き芋作りなどで交流を深めた。親睦を深めるためにPTAを中心に企画。児童12人と保護者16人が参加した。今回は児童が収穫したサツマ芋を焼き芋にして食べた。焼き芋ができるまでの時間、体育館でゲートボールやドッジボールをして楽しんだ。

オープンスクールには鳥羽市と名古屋から2組の親子が参加。鳥羽のH さん一家は先月、学校近くのゲストハウス亀成園で一日農村体験を楽しんだ。そのときオープンスクールを知り、「鳥羽でも1クラス28人で少人数だが、香肌小はもっと少ない。メリットが気になった」と参加。「一緒に遊んだり、子供たちが自然に接してくれるところがすごい」と話した。

もう1組はK さん一家。「都会の生活は車の音などでうるさい。習い事や塾に娘たちを合わせ

ているが、コロナでオンラインとなり、また会社もリモートが増え、都会にいない必要がなくなつた」と話す。自然や人のコミュニケーションがあり、子供たちが伸び伸びと成長できると思ったという。「気に入ったいい空き家物件があれば住みたい」と話した。